

みやまの風



令和6年7月1日(月)発行 園長 津田 将美 寄 松田
カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

家族の教室

6月の教室は、水族館となりました。ドーム型の水槽が中心を通り、色とりどりの海の住人が生き生きと活動しています。その場に入ると、正に夢の世界でした。そのような環境の中、子どもたちの夢は広がり、彩を見せながら仲間の心も照らします。そこから新たな夢の共有が生まれ、それぞれの想いが深化していきます。

「素敵なお魚さんできたね、まねして作ってみよう。」

「お魚、もっと増やしたいね。」

「釣りコーナーを広げるといいんじゃない？」

「あっ、それいいね。」

教師は子どもたちのこのような会話から、一人ひとりの想いや願いがつながるような環境設定を日々、工夫しています。子どもたちの生き生きとした目を見てみると、そんな家族のような関係の中ですくすくと伸びていることを感じます。



6月10日に、巡回相談がありました。臨床心理士さんと町の子育て健康課の方が子どもたちの様子を参観しながら支援方法について助言をいただいているのですが、その時の言葉です。

「子どもたちの縦の関係が強くて、みんなに協力する姿勢がありますね。年長さんや年中さんをお手本にして年少さんも伸びているような環境が、とてもいいと思います。」

私は、この言葉は最大の賛辞だと感じました。(何でも前向きにとらえる性格なもので…) また、その関係や環境構成を一人ひとりの想いに寄り添いながら支えている職員に、新たな感謝の気持ちが湧いてきました。

先日行った川原遊びでは、ペットボトルのいかだを仲間と協力して作成しました。昨年度の経験を生かして、年長、年中さんを中心に試行錯誤しながらの製作は続いています。

「もっと丈夫にしたいね。」

「ここが取れちゃうから、ここをこうつけて…」

「ここ、押さえてて。」

失敗は大切です。うまくいかなかったことを生かして、仲間と考えながらいかだは進化していきます。そして…

「うわ～！できたあ！！」

成功した時の感動も、みんなの想いが重なり合い、何倍にも大きくなっていくようでした。

「楽しかったね、明日も行きたいね。」

「そうだ！テルテルぼうずを作ろう！」

「そうしよう！！」

「園長先生が、テルテルぼうずになるよ！」

「…」

残念ながら、園長の提案は却下されたようでした。

